



安原の
いま

総人口 4,401人 (前年比-68人) 【男 2,122人 女 2,279人】
安原地区公民館 〒390-0802 松本市旭2-11-13 TEL 0263-39-0701

令和7年9月
7日旭町小学校
で、避難所体験
訓練がおこなわ
れました。松本
市・丸の内消防
署・消防団第一分団と安原・
城北・城東の3地区の自主防
災部会が共催しました。



◆何が体験できる？

一昨年の避難所設置訓練、
昨年の避難所体験訓練を踏ま
え、今回は新たな体験が用意
されました。給水車から、実
際に持参容器と用意された災
害用ウォーターバッグに、給
水を受けました。体育館内
は、要救助者にのしかかる木
材などがれきを、ボールや
車のジャッキなどを使って救
出する実演がありました。救
助者の搬送の方法指導では、
すぐ手に入る毛布などを使っ
て担架代わりを作る方法、複
数人で運ぶやり方からひとり
だけでの方法が実演されまし
た。指導のもと参加者が力と
息を合わせて救助者の搬送を
体験しました。今年も緊急時
の簡易トイレの使用の体験に
加え、組立式の段ボールベッ
ド作りも行いました。「意外に

避難所体験訓練に参加して
～新しい避難訓練は3年目に～



がれきをジャッキアップして救出。すごい

丈夫で安定している」こ
とが体験できました。「昨
年は新年一日に能登の地
震があったから、色んな
備蓄物資が少なくなっ
ていた」と毎年参加されて
いる方が話しました。災
害は時を選ばずいつ起こ
るかわかりません。

◆町会の指定避難所は

安原地区の各町会は次のよ
うに指定避難所が決められて
います。旭町小学校は新町・
袋町・安原町・両下町・旭町
の各町会が、信大附属小は元
原町会、信大附属中に天白三
萩町(城北の同心口張)町会、
信州大学には中原町会が振り
分けられ、指定避難所ごとに
訓練が計画されます。
今回、避難所の受付に提出
する情報として「避難所避難

性について強調されました。
搬送や救助の際の安全確認と
管理、大声での声かけも、被
災時の現場では必要であると
知りました。

公助の重要性、自主防災
組織の活動、今回の避難
や救助の協力体制の必要
な

いちよう並木

「春早く咲くアネモネ」
栽培のポイント

アネモネは、チューリップ・
パンジー・ビオラや水仙と共
に春の花壇やプランターを演
出します。キンポウゲ科アネ
モネ属の多年草で、原産地は



一人でも命を助け出せる

者」または「在宅避難者」の
項目を選択し、住所氏名と共
に記載しました。被災者の全
員が避難所で生活することは
難しいでしょう。在宅避難者
でも支援を受けられる情報の
共有が必要です。自分たちで
何ができるか、自分には何が
必要か、平穏な日々の中では
気付けない事がたくさんあり
ます。災害に備えること、避
難所となる場所で訓練を体験
することは、とても重要な一
歩であると強く感じました。

地中海沿岸地域です。

野生種から選別を重ね、品
種改良が進み、親しみのある
花が誕生しました。球根は秋
に植え付けます。発芽率を上
げるために植え付けは気温が
15度以下になってからにし
てください。丸みのある錐形の
良く乾いた球根を選びまし
ょう。酸性土壌を嫌うため、植
え付け前に苦土石灰か石灰を
撒き中和する事が大切です。
錐形の尖った方を下にして3
cm程砂交じりの用土で覆いま
す。風通しの良い場所を選ん
で植えてください。窒素肥料
が多いと葉が茂り風通しが悪
くなり、花は期待できず病害
虫発生の要因となります。カ
リ・リン酸肥料は他の花より
多めに与えるとよいです。



春を感じるアネモネ

元原町会避難所開設と避難者受入れの 初動訓練の実施 ↳ 様々な視点から学ぶ



子ども専用スペースを子どもが作る

令和7年12月14日(日)、信大附属松本小学校で、発災初日を想定した実動訓練が行われました。元原町会の避難訓練はコロナ禍で数年中断、その後再開され、指定避難所である信大附属松本小学校での本格的な実動訓練は、3回目となりました。

今回は元原町会を中心に、信州大学教育学部防災教育研究センター、NPO災害支援ネットワーク、防災士会、長野県社会福祉協議会、ジェンダー検討委員そして信大附属松本小学校5年西組が参加し、複数組織による多角的な視点を学ぶとともに、それぞ

れの立場から発災時に想定されるニーズの把握とその対応について、実働を通して学びを深めることができました。当日は、元原町会が発災1日目を想定した訓練でした。これと並行し、外部組織6団体は発災3日目を想定した訓練を行いました。この組み合わせにより避難所のニーズを多角的に捉え、避難者を尊重したスペースや物品の確保、動線や掲示の確認など、初動時の立ち上げに必要な事項の確認から、さらにフェーズを上げて、避難所の環境を整える訓練ができました。具体的にはジェンダー多様性対応、女性専用、認知症あるいは自閉症などの特性対応、子ども支援など、様々な状況を想定したスペースが確保され、よろず相談所や避難者自身による必要物品書き出しボードの設置など、自分が被災者であったら何が必要なのかをより追求したものとなりました。



ドーム型シェルターと内部

ム・松本実働訓練の様子も見学し、いわゆるイタリア式避難所に寄せた避難所の実態を体験できました。発災3日目を想定したここでのコンセプトは「避難者が安全に安心して生活できる避難所」とのことで、温かい食事、一般および障害者用トイレとシャワールの整備、ならびに様々な事情を抱える避難者対応のため福祉の連携と活動拠点の設置、ボランティアセンターの設置など、被災者一人ひとりを尊重した現場となっていました。

見学者にも温かい食事の試食会があり、特に冬季の災害では、温かい食事が不安を軽減する大事な要素であると感じました。またDMAT(災害派遣医療チーム)とDWAIT(災害福祉専門チーム)の活動拠点が避難所システムに組み込まれていることは、被災者を救う重要な仕組みであると思いました。

今回の訓練のまとめとして、信州大学教育学部防災教育研究センターの神田先生より、避難所開設初動リーフレットが第2版となり、訓練するたびに内容が深まっている。災害訓練に正解はなく、最も重要な「命を守る」ことを軸に、さらなる訓練の継続が呼びかけられました。

旧陸軍の秘密研究・戦争に巻き込まれた家族の記憶 ↳ 長野県内の戦争遺構を探る旅

12月25日、安原地区人権啓発推進バス視察で駒ヶ根市登戸研究所平和資料館と伊那市創造館を訪問しました。



説明「石井式ろ過筒」実験器具

登戸研究所とは旧陸軍の秘密機関で、化学兵器・風船爆弾などの研究を行っており、太平洋戦争末期に駒ヶ根市にせ札。

伊那市創造館では陸軍伊那飛行場の調査記録、配備されていた旧陸軍航空機の模型の他、「ある一家の十五年戦争」として戦地に赴いた若者の家族宛の手紙・日記・写真や持ち物等を見学しました。

参加された方々は、生々しい当時の出来事や品々に思いを巡らせていました。どうして戦争が起きたのか。どうすれば戦争を防げるのか。私たちは戦争のあった時代を学び、将来を考えることができそうです。果たして私たちは何ができるのでしょうか。か…。



伊那市創造館の展示は期間限定(常設展を検討中)